
い草乾燥機に関する実験的研究

神屋 静太郎・藤井 秀明・岡部 正昭

(福岡県立農業試験場)

福岡農試農機具研究室と筑後分場い草栽培研究室の共同研究である。現在普及している穀用静置型通風乾燥機利用による、染土直後からのい草乾燥法を見出すために行なった。第1試験では熱風方向が異なる乾燥箱を試作した。い草堆積箱中に平行に横方向より無数の小孔をもつパイプを具え、熱風を通した。これはパイプの直下に過乾部位を生じた。また厚さ10cmの層を縦に並べたものは、乾燥性能は良好であったが、実用化する場合は張り込み取り出しに對す

る考慮が必要と思われる。第2試験として染土による部分的固結を防ぐため、乾燥箱を上下動させた。目的は達せられたが通風を均一にするためビニールで包んだので、締めつけられて乾燥時間が伸びた。材料い草について日乾を行なった。染土したものはしないものより乾減水分率が大きい。また経時的にとって長さを3分して測定すると、染土の先端側は4時間でほぼ乾燥が終る。根元側は何れもまだ60%に近い。中央部分は両端の中間を保って乾燥して行く。